

地域の経済動向(令和5年10-12月期) 《オホーツク地域》

1 経済動向に係る企業等の声(10~12月期)

【製造業】

- ALPS 処理水の海洋放出に関する影響はないが、燃料の高騰により、昨年度と比較し光熱費が約 1.5 倍まで跳ね上がり、利益を出すのに苦慮している。(水産加工業)
- 産直の卸売りをを行っているが鮮度が重要であり、1 社だけでは航空便の手配が厳しく非常に苦しい状況が続いている。(水産加工業)
- 加工場は人手不足で従業員の高齢化も進んでいるが、若年層の応募がなく代替わりできない。(水産加工業)
- 町内の水産加工業者は、現時点では資金繰りが厳しいという話は聞こえてこないが、中国の禁輸措置が来年まで長引けば、いよいよ厳しくなる業者が出てくる可能性を懸念している。(商工会)
- 印刷用紙などの資材価格が上昇しており、特に印刷用機械に使用するアルミ板の価格が、昨年と比較し倍以上となっている。価格転嫁しなければ厳しいが、小売価格が上がれば取引が少なくなるため、価格転嫁は難しい状況。(印刷業)

【卸売・小売業】

- コロナ禍前からインターネット販売に注力しており、コロナ禍による影響はイベント出展が減少した程度で、さほど影響を受けずに運営できた。(食料品小売業)
- イベントの自粛や縮小がなくなり、煙火の売上が増加している。ただ、発注元からの予算は増えているものの、煙火の単価も上がっており、花火の打揚数をさほど増やせていない。冬季も煙火の消費は増加する見込みだが、火薬の価格上昇や運送コスト上昇について、販売先の理解が得られるかを懸念。(化学製品卸売業)
- ホタテ消費ムードのお陰で、ふるさと納税などで何とか売上も確保できている。(商工会)

【運輸業】

- 主に、酪農家が出荷する生乳を運搬しているが、今年は生乳の生産量が落ちたため、売上が減少した。一方で、燃料高騰による影響はあるものの価格転嫁は出来ている。(道路貨物運輸業)
- 主に、ビートの運搬をメインとしているが、今年は凶作のため生産量が 2 割程度減少し、売上も減少した。燃料高騰に伴う価格転嫁も 6 割程度にとどまり、利益も減少した。(道路貨物運輸業)
- トラックが約 5 百万円、ミルクローリーが約 15 百万円と車両価格の大幅な値上がりで、計画的な設備更新に苦慮している。(道路貨物運輸業)
- 飼料の積み込み作業員とトラック運転手が不足しており、ハローワークに求人を出しているものの応募がなく、縁故採用に頼らざるを得ない状況。若年者の採用に力を入れるため、雇用後に大型特殊免許などを会社の費用で取得できるようにしているが、効果が出ていない。定年者が一斉に出る時期が予定されており、将来的な運営状況を危惧している。(道路貨物運輸業)
- 町内のタクシー会社はドライバー不足により、車輛の運行にも苦慮している。(商工会議所)

【サービス業】

- 民泊を行っているが、コロナの 5 類移行で長期滞在者が増え、売上が増加した。2 月の流氷シーズンはすでに半分近くの予約が入っているが、ほぼインバウンド客という状況。(宿泊業)
- 1 次会の利用に留まっており、20 時以降はガラガラという飲食店が多い。街に人が戻ったように見えるが、思った程に売上が上がっていないとのこと。(金融機関)
- 大きなホテル等では受付の無人化などが進んでいるが、客室清掃の人員確保が難しく、部屋の稼働率を下げたり、遅い時間のチェックインを推奨するなど対応に苦慮しているという話を聞いている。(金融機関)
- 回転寿司店では、原材料は確保できている反面、人材不足が大きな問題となっており、人のシフト繰りに苦慮していると聞いている。(経済団体)

2 道内金融機関から見た地域景況感(10-12月期)

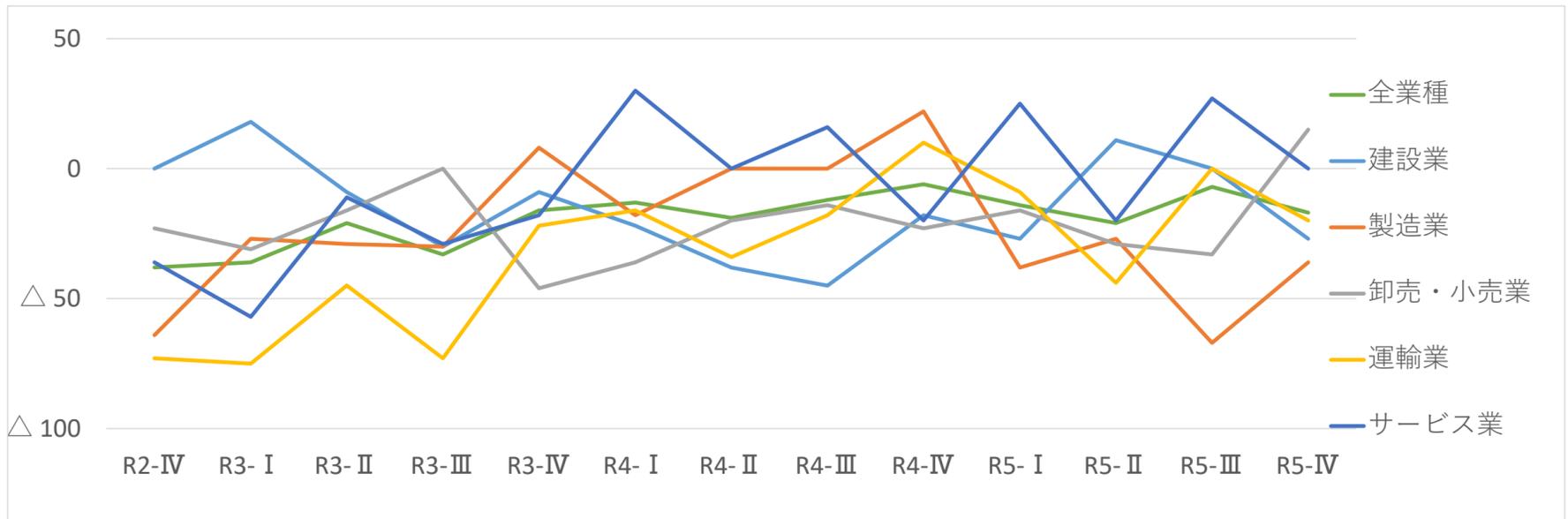
①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
非常に好調	好調	やや好調	普通	やや低調	低調	非常に低調
						

【直近の景況感】

	現在の景況感			判断理由	方向感	次期見通し	判断理由
	総合	生産動向	消費動向				
網走信用金庫				当金庫業況調査において、製造業のDIが0となったが、建設業のDIが△12.0であり、生産動向を「やや低調」と判断した。消費動向においては卸売・小売業のDIがマイナスに転じたが、サービス業のDIがプラスとなり「普通」と判断した。 全業種においてはDIが△4.0となり、前期の「やや低調」から「普通」と判断した。		当金庫業況調査の次期予想において、全業種のDIが△19.4とDIが悪化しており、景況見通しを「下降傾向」と判断した。	
遠軽信用金庫				遠軽地方における景気動向調査の結果、全業種の業況DIは△11.8となり、前期調査△8.2からやや悪化する結果となった。前期同様、人材不足や物価高騰による影響等により、多くの事業先で厳しい状況が続いていることから、現在の景況感は前期調査時同様の「やや低調」と判断した。 生産動向・消費動向については、サービス業・不動産業で売上DI・収益DIともに前期から改善が図られたものの、製造業、卸売業・小売業及び建設業で売上DI・収益DIは悪化する結果となり、生産動向及び消費動向は「やや低調」と判断した。		次期の景況見通しについては、多くの事業先で閑散期となり、調査を行った全ての業種において、売上DI・収益DIは悪化することが予想されており、「下降傾向」と判断した。	
北見信用金庫 (北見地区)				当金庫の景気動向調査による北見地区の景況は、前年同期と比較したDIは、売上高が△14と16ポイントの悪化、収益も△18と7ポイントの悪化となっている。		今期とと比較した次期の見通しでは、売上DIは△28、収益DIは△31と悪化の見通しとなっている。	
北見信用金庫 (紋別地区)				基幹産業である漁業が最盛期なことから、水産関連会社を中心に生産動向活況となっている。特に主力であるホタテ漁が好漁であり、秋サケ漁についても前年に比べ減少するが一昨年の実績を上回っており生産動向については「好調」とした。消費動向については地域クーポン券の発行等上向きな状況であるがコロナ禍前の回復はないことから「普通」とし、総合的に「やや好調」とした。		流水シーズンによる観光客増加が期待されるものの、水産関連の会社を中心に市内多数の業者が閑散期に入ることから、全体として景況見通しを「下降傾向」と判断した。	

	R4- I	R4- II	R4- III	R4- IV	R5- I	R5- II	R5- III	R5- IV
網走信用金庫								
遠軽信用金庫								
北見信用金庫 (北見地区)								
北見信用金庫 (紋別地区)								

3 業種別の業況感BSI(企業経営者意識調査)



	R2-IV	R3-I	R3-II	R3-III	R3-IV	R4-I	R4-II	R4-III	R4-IV	R5-I	R5-II	R5-III	R5-IV
全業種	△ 38	△ 36	△ 21	△ 33	△ 16	△ 13	△ 19	△ 12	△ 6	△ 14	△ 21	△ 7	△ 17
建設業	0	18	△ 9	△ 30	△ 9	△ 22	△ 38	△ 45	△ 18	△ 27	11	0	△ 27
製造業	△ 64	△ 27	△ 29	△ 30	8	△ 18	0	0	22	△ 38	△ 27	△ 67	△ 36
卸売・小売業	△ 23	△ 31	△ 16	0	△ 46	△ 36	△ 20	△ 14	△ 23	△ 16	△ 29	△ 33	15
運輸業	△ 73	△ 75	△ 45	△ 73	△ 22	△ 16	△ 34	△ 18	10	△ 9	△ 44	0	△ 20
サービス業	△ 36	△ 57	△ 11	△ 29	△ 18	30	0	16	△ 20	25	△ 20	27	0

4 各種経済指標

